

校外学習における博物館活用の一例

— 屏風から歴史を眺めてみる —

八千代松陰中学校 中田 隆

1. 実施学年及び教科・領域

中学校全学年を対象とした希望生徒による自由参加の形式で、社会科校外学習として設定している。

2. テーマについて

本校では中学校2年生で、歴史を週4時間1年間学習している。1学期は原始から中世までの概略を、2学期は近世から近代までの概略、3学期は現代までを学習するが、教科書の記述外の世界史分野も並行して学習するため、所定の時間内では主要な人物や事件中心の学習になっている。そのため、民衆の暮らしや文化の学習内容の充実を図りたい意図があった。

また、テーマ設定は2年生の長期休暇の前学期学習内容を中心に設定した。3年生は全学年の既習範囲であること、2年生にとっては学習してまだそれほど時間が経っていないこと、1年生は前年度中学受験をしていることなどから、全学年の同時受講が可能であった。

以上のことから生徒の興味・関心を生かしながら、研究者の方々のご協力をいただき、博物館の豊富な資料を用いて、より一層の生徒の歴史理解を深めたいと考えている。

3. 博物館活用の視点

本校では「松陰セミナー」という課外学習講座を全教科で設定している。社会科については、前項にも記述したが、授業では主要な人物や事件中心の学習になっている。そのため、民衆の暮らしや文化の学習内容の充実を、博物館での校外学習で図りたい意図があった。国立歴史民俗博物館は本校の所在地である八千代市と隣接市の佐倉市にあり、生徒も容易に訪問が可能なおことから、今回活用させていただいた。

また、国立歴史民俗博物館は①全時代的に展示資料が豊富である。②民俗や生活文化の内容が充実している。③展示室によって時代や文化区分が分かれているので、テーマ設定でより集約的な学習ができる。という利点が挙げられる。今回は特に「洛中洛外図屏風」「江戸図屏風」の複製資料をお借りすることができ体験学習も実施可能であった。

今回は特に博学連携の観点から、専門の研究者から見学実習のアドバイスも受けられるように依頼し、先生方から快諾をいただいた。生徒たちにとって、専門の研究者から博物館の展示を直接解説してもらえるとすることは、貴重な体験となるに違いないであろう。また、このような形式であれば、教員が歴史の専門教員でなくても引率・訪問が可能とな

り、より一層博物館利用が促進されると考えられる。

今回の訪問は、全員必修の遠足とは異なり課外学習講座なので、希望者のみの参加となる。そのため、生徒の学習意欲も比較的高いため、歴史認識を深める学習効果が大いに期待できると考えられる。

4. 活用した展示資料

◇夏期校外学習「中世の歴史を探る」(ガイダンスルーム・第2展示室)

「洛中洛外図屏風」… 実物大複製模型、2分の1複製模型

解説用タッチパネル、実習用拡大カラーコピー

「第2展示室」… 中世鎌倉のジオラマ、一乗谷朝倉氏遺跡復元模型

室町時代京都の町並み復元模型など

◇冬期校外学習「近世の歴史を探る」(ガイダンスルーム・第3展示室)

「江戸図屏風」… 複製シート、複製パズル、2分の1複製模型

解説用タッチパネルなど

「第3展示室」… 各展示物、寺子屋「れきはく」体験コーナーなど



(ガイダンスルームにて「洛中洛外図屏風」の複製を使った実習風景)

5. 活動計画・実践

(1) 事前計画

1ヶ月前に校外学習参加希望者を募り、参加希望者には簡単なガイダンス（当日の概要や見学のポイントなどを説明）を実施した。

(参考) 平成21年度 冬期校外学習 募集要項 (抜粋)

平成21年度「松陰セミナー」社会科冬期校外学習 募集要項

1. 日 時 平成21年12月22日(火) 9:30～12:40
2. 場 所 国立歴史民俗博物館(京成佐倉駅より徒歩約15分)
3. テーマ 「近世の歴史を探る」～国立歴史民俗博物館を訪ねて～
4. 指導者 国立歴史民俗博物館 歴史研究系
近世研究部門教授 久留島 浩 先生
国立歴史民俗博物館 広報サービス室
研究支援推進員 太田 歩 先生
国立歴史民俗博物館 博学連携研究員
八千代松陰中学校教諭 中田 隆 先生
5. 日 程 9:30 国立歴史民俗博物館 入口前 集合
→ガイダンスルームに移動し、演習(担当 中田先生)
テーマ「家光を探せ!」～江戸図屏風を探る～
10:30 専門家指導による博物館見学実習(担当 久留島先生)
テーマ「国際社会の中の近世日本」
オランダ・朝鮮・琉球・中国・アイヌなど
→先生の解説後、各自で自由見学
12:30 ガイダンスルーム再集合ののち、まとめ
12:40 国立歴史民俗博物館 入口前 解散
6. 備 考 ◇募集人員は、前向きに取り組める生徒20名程度とする。
◇見学用ワークシートを事前に配付の予定。
◇詳細は12月に行うガイダンスで参加者に説明。

(2) 当日の展開 (参考 平成 21 年度 冬期校外学習)

学習活動と内容	支援	備考
<p>1. オリエンテーション</p> <p>① 担当者に挨拶</p> <p>② 目的と予定の確認</p> <p>2. 「江戸図屏風」への取り組み</p> <p>① 江戸図屏風再生プロジェクト</p> <p>② 何をしているのかな？</p> <p>③ 家光を探せ！</p> <p>3. 第3展示室での取り組み</p> <p>① 国際社会の中の近世日本 オランダ・朝鮮・中国・アイヌ 琉球など</p> <p>② 寺子屋「れきはく」体験コーナー</p> <p>4. まとめ</p> <p>① 本日のまとめ</p> <p>② 質疑・応答</p> <p>③ 担当者にお礼の挨拶</p>	<p>◇ ガイダンスルームで担当者が概略を説明する。</p> <p>◇ パズルの組み立てをしながら、江戸図屏風の概略を説明していく</p> <p>◇ 屏風の中に描かれている事物などから推理させてみる</p> <p>◇ さまざまな場所に描かれている家光を探しながら、屏風作成の意図に気付かせる</p> <p>◇ 博物館の研究者が展示物を用いて解説する。</p> <p>◇ 各自のワークシートを完成させながら理解を深めさせる。</p> <p>◇ 体験学習も可能</p> <p>◇ ガイダンスルームに戻り各自の調査結果などを発表させる。</p> <p>◇ 不明な点や疑問点を質問させる。</p> <p>◇ 今回の学習内容をまとめさせ、レポートを作成することを指示する。</p>	<p>パズル 複製シート ワークシート デジカメ</p> <p>各展示物</p>

6. 成果と課題

(1) 生徒の感想より（参考 平成 21 年度 冬期校外学習の場合）

①江戸図屏風を見て「何をしているのかな？」の問いかけにたいして

- ◇馬に乗って戦っている
- ◇鳥（キジ）を狩っている
- ◇日本橋に乞食みたいな人がいる
- ◇お手玉をしている
- ◇羽子板をしている
- ◇門松がたっている
- ◇男の人が変なものをかぶって（太鼓をたたいて）踊っている
- ◇たくさんの船（赤丸 5 個の旗を掲げている）がいる
- ◇歌舞伎者がいる
- ◇天秤棒を持っている人がいる
- ◇家紋が書いてある

②第 3 展示室を見学して気がついた点について

- ◇朝鮮が将軍の変わるとに通信使を送ってくるのはすごいと思った
- ◇朝鮮人参など植物で貿易してすごいと思った
- ◇日本は朝鮮を「信を通わす国」とし、朝鮮は日本を「交隣」としお互いに尊敬していたのに対し、幕府と王朝が会う機会が少ないと思った
- ◇アイヌは個性的な独特な文化をはぐくんだと思った
- ◇オランダとの関係が、関ヶ原の戦いと同じ年に始まっているのはおどろき
- ◇寛文長崎図屏風にはまだ唐人屋敷がないため、中国人がいたところに見られた
- ◇清は琉球から品物が来ると、たくさんの品物を返したよい関係だった
- ◇琉球は日本と付き合いながら、どうして中国に対して臣下の礼をとっていたのか不思議（機嫌取り？）
- ◇琉球は中国貿易の中継地点となっていた

③校外学習全般の感想

- ◇屏風にはその時代の生活様式や、出来事などがたくさん描かれていて面白いと思いました。もっとたくさん見たいと思いました。
- ◇お話をお聞きして歴史に興味を持つことができました。専門の先生がわかりやすく説明してくださったので、よく理解できました。
- ◇最初にやったパズルは思ったより難しかったですが、とても楽しくできました。



(ガイダンスルームにて「洛中洛外図屏風」の複製模型を使った実習風景 写真上下)



(ガイダンスルームにて「洛中洛外図屏風」のタッチパネルを使った解説風景)



(第2展示室で歴博の村木先生から展示物の解説を受ける風景)

(2) 成果と課題

今回の博学連携のテーマとして、「もっと博物館へ行ってみよう」と題して、このセミナーをきっかけに博物館の面白さに気づいてもらい、足を運ぶ生徒がひとりでも増えてくれたらと思い設定した。また、学年主任として学校行事で博物館へ引率する機会が多いのだが、生徒を引率する先生方が必ずしもその分野の専門ではないことも多く、生徒たちへ質の高い指導ができるか不安を感じている方がいることをふまえ、専門家の方々のお力を借りながら教育効果の高い実習にするためのプランニングができたかと考えていた。前述の通り、教員としては専門の研究者から見学実習のアドバイスも受けられ、生徒たちは専門の研究者から博物館の展示を直接解説してもらえるとということで、大変貴重な体験であった。

また、今回は希望者を募っての課外学習講座という設定であったため、比較的少人数で意欲的な生徒を集めることができた。博物館という校外の施設を使用することは、生徒にとって新鮮で興味を持てるシチュエーションであるため、向学意欲の高い生徒には良い環

境であった。

課題としては、校外のため連続性のあるテーマ設定をした場合、すべてを受講することは容易ではないこと（クラブ活動や個人的な都合で欠席してしまう場合がある）と、全学年を対象として受講希望者を募ったため、レベル設定を工夫する必要があること（ある生徒には難しすぎ、ある生徒には易しすぎ）だと考えられる。

とはいえ、このような機会を設けることは有意義だと考えられるので、今後より一層工夫をしていければと考えている。

（3）今後の展望

校外の課外学習講座という設定で行ったため、生徒にとっては新鮮で興味を持てる学習であったが、事前学習の時間を十分に確保できなかったため、やや消化不良になってしまった生徒も出てしまった。せっかく専門の先生方から直接お話を伺える機会であったのに、「何か質問は？」の問いかけに沈黙してしまう場面がたびたび見られたのが残念であった。時間に余裕があれば、解説をうかがう前に生徒が見学する時間をとり、疑問点・質問点を考えさせておくと思われ。

また、設定時間は午前中の3時間ほどであったが、より深く学びたい生徒には時間が足りず、「午後も残って見学していてもいいですか？」との申し出もあった。短い時間にあれもこれもと詰め込んでしまうと未消化になってしまうので、もう少し内容を絞って展開を考えるべきであったかとも思われる。

以上の点を考慮して今回のテーマ設定と同様の内容で実施することを想定した改善指導案を次のように提案してみたい。

7. わたしの考える歴博活用案

※「江戸図屏風」と第3展示室を用いた校外学習指導案（改善案）

学習活動と内容	支援	備考
1. オリエンテーション ①担当者に挨拶 ②目的と予定の確認	◇ガイダンスルームで担当者が概略を説明する。	
2. 「江戸図屏風」への取り組み ①江戸図屏風再生プロジェクト ②何をしているのかな？	◇パズルの組み立てをしながら、江戸図屏風の概略を説明していく。 ◇屏風の中に描かれている人物・事物などから当時の民衆の様子を考えさせる。	パズル 複製シート ワークシート デジカメ
3. 第3展示室での取り組み ①展示室の見学 ②国際社会の中の近世日本 オランダ・朝鮮・琉球など	◇②の解説をしてもらうことを想定して見学、疑問点などをまとめておく。 ◇博物館研究者が展示物を用いて解説する。 ◇疑問点を質問させ解決しながら理解を深めさせる。	各展示物 ワークシート
4. まとめ ①見学の感想 ②本日のまとめ ③担当者にお礼の挨拶	◇感想を述べさせ、不明な点や疑問点を発表させる。 ◇今回の学習内容をまとめさせ、レポートを作成することを指示する。	

《改善案のポイント》

◇「江戸図屏風」への取り組みについて

『①江戸図屏風再生プロジェクト』はパズルを使用して江戸図屏風を完成していったが、生徒の興味・関心も高く楽しく学習活動に入れるので、導入としては大変効果的であったと思われた。

『②何をしているのかな？』は、ガイダンスルームのタッチパネルを用いて組み立てたパズルと照らし合わせながら解説をすると、ビジュアル面のインパクトがあり、わかりやすく説得力もあったようである。

『③家光を探せ』は江戸図屏風に描かれている家光を探させる企画であったが、②の中で解説をしながら紹介することで可能であった。時間的にもガイダンスルームで設定していた1時間の中では時間的に難しいようで、改善案では削除した。

◇第3展示室での取り組みについて

『①展示室の見学』は当初、解説を聞いてから自由見学を想定していたが、解説を受ける展示をあらかじめ設定しておいて各自で予習、疑問点・質問点をまとめてから解説を聞いたほうが、より有意義に思われたため当初案から順番を入れ替えて改善案では提案して

いる。

『②国際社会の中の近世日本』は当初、オランダ・朝鮮・中国・アイヌ・琉球を設定したが、項目が生徒には多すぎたようで、せっかくお話いただけるのに聞くので精一杯になってしまったので、もう少ししぼったほうがよいと思われた。改善案では展示物の内容を考え、オランダ・朝鮮・琉球の3点に項目を削減してその分内容を充実できるように考えた。

『③寺子屋「れきはく」体験コーナー』については、内容的には楽しく有意義であるが、今回の時間設定で考えるとかなりの時間を割いてしまうので、改善案では削除した。

◇まとめについて

『①見学の感想』を述べさせることにより、生徒自身が見学により発見できたことを再確認し、不明な点や疑問点を解決することに努めるようにした。

『②本日のまとめ』で今回の学習内容を再確認するとともに、レポート作成を指示し、知識の定着を図るようにした。また、最後に教員のまとめがあるほうが方向性を示しやすいので、①と②は当初案から順番を入れ替えて改善案では提案している。